

4月の発生予報および防除上の注意事項

向こう1カ月間における農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

沖縄群島

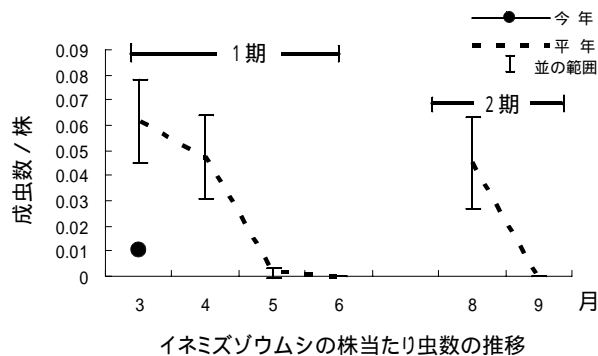
1 水稻(1期作)

(1) イネミズゾウムシ

発生程度: 少

予報の根拠

3月下旬の調査の結果、株当たり虫数は0.01頭(前年0.01頭、平年0.06頭)と平年より少なかった。



防除上注意すべき事項

- 成虫密度の高い水田では、田植後10～15日頃に水面施用剤を散布する。
- 補植苗は放置しておくとならば病害虫の発生源になるので処分する。

2 さとうきび

(1) カンシャコバナネガカメムシ

発生程度: やや少

予報の根拠

3月の調査の結果、茎当たり虫数は0.5頭(前年0.9頭、平年1.8頭)と平年よりやや少なかった。

防除上注意すべき事項

- 2～3月の気温に基き、3月29日時点で防除適期を予想すると表のとおりとなる。今後の気象の経過次第で多少変動することもある。
- この時期に地域一斉防除することが望ましい。
- 薬剤防除の際は、周辺住宅地に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月29日現在)

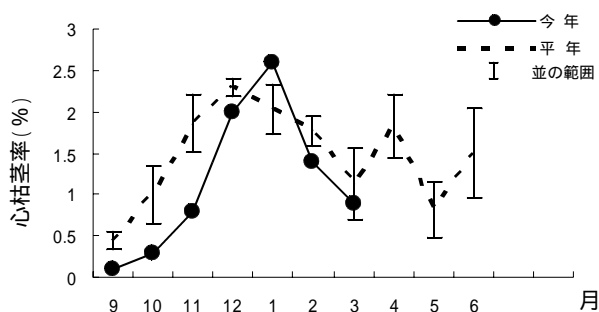
地域別	防除適期	2.5齡期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月15日～4月29日	4月22日	4月22日	平年並
南・北大東島	4月13日～4月27日	4月20日	4月19日	1日遅い

(2) メイチュウ類

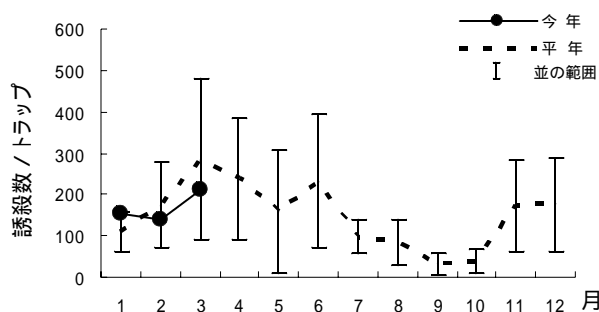
発生程度： 並

予報の根拠

- a 3月の新植圃場での芯枯茎率は0.9%（前年1.0%、平年1.1%）と平年並であった。
- b 3月のカンシャノシンクイハマキ性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は212頭（前年137頭、平年284頭）と平年並であった。



メイチュウ類による心枯茎率の推移



カンシャノシンクイハマキの発生推移

防除上注意すべき事項

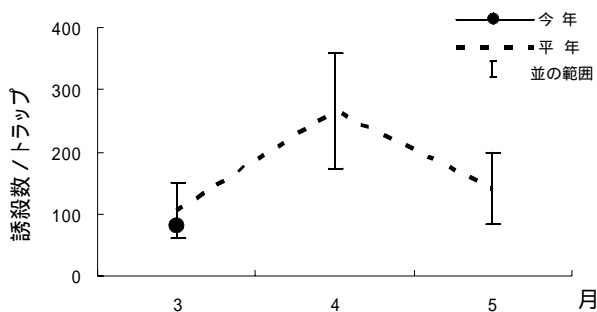
- a 加害による心枯を防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- b 植え付け時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

(3) オキナワカンシャクシコメツキ

発生程度： 並

予報の根拠

- 3月の性フェロモンによるトラップ当たり誘殺数は79頭（前年94頭、平年106頭）と平年並であった。



オキナワカンシャクシコメツキの誘殺数の推移

防除上注意すべき事項

- a 誘殺用トラップは風通しの良い所に設置し、生育中の圃場内には設置しない。
- b トラップ周辺の除草や水及び中性洗剤の補充等の管理を定期的に行う。
- c 更新圃場はすみやかに耕起し、残渣処理を実施する。

黒穂病の防除対策について

平成16年度沖縄県病害虫発生予察技術情報第1号（平成16年4月1日付け）参照。

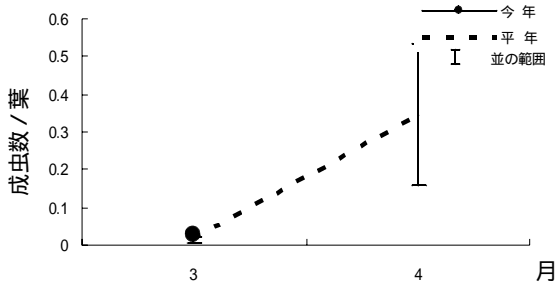
3 温州みかん・タンカン

(1) アブラムシ類

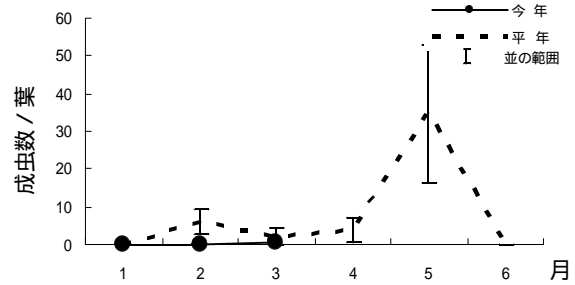
発生程度： やや多(温州みかん)、並(タンカン)

予報の根拠

3月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は温州ミカンで0.03頭(前年0頭、平年0.02頭)と平年よりやや多く、タンカンで0.49頭(前年0.04頭、平年2.21頭)と平年並であった。



温州みかんにおけるアブラムシ類の発生推移



タンカンにおけるアブラムシ類の発生推移

防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一同系統薬剤の連用を避ける。

4 マンゴー

開花期の病害虫防除対策について(炭疽病、ダニ類、アザミウマ類)

開花期は病害虫の多く発生することから、早期発見・早期防除に努める。

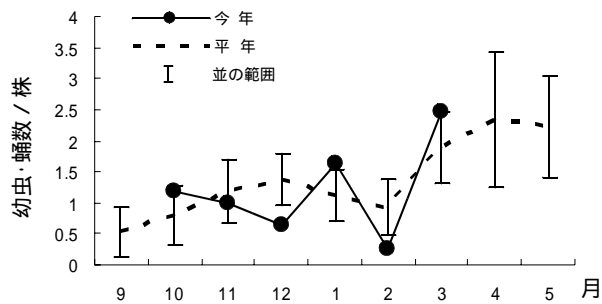
5 キャベツ

(1) コナガ

発生程度： 並

予報の根拠

3月中旬の調査の結果、株当たり幼虫・蛹数は2.5頭(前年1.2頭、平年1.9頭)と平年並であった。



キャベツにおけるコナガの発生推移

防除上注意すべき事項

- ほ場周辺のアブラナ科雑草の除去および収穫後の残渣処理を徹底しほ場衛生に努める。
- 薬剤散布は発生初期の低密度時が効果的である。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一同系統薬剤の連用を避ける。

モンシロチョウの防除対策について

- 本種は年7～8世代をくりかえし、3～6月、10～11月に発生が多い。3月中旬の調査の結果、株当たり卵数は7.2個であった。
- 防除はできるだけ若齢期をねらって行う。また、ほ場周辺のアブラナ科雑草は発生源となるので除去する。

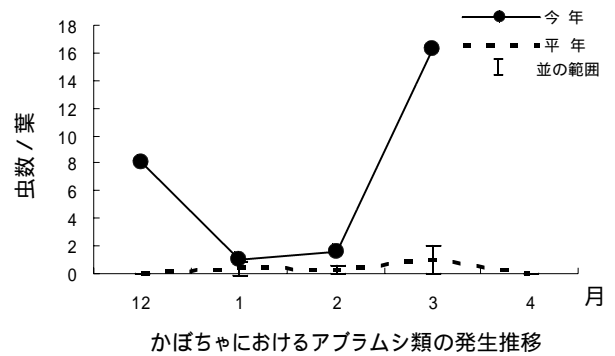
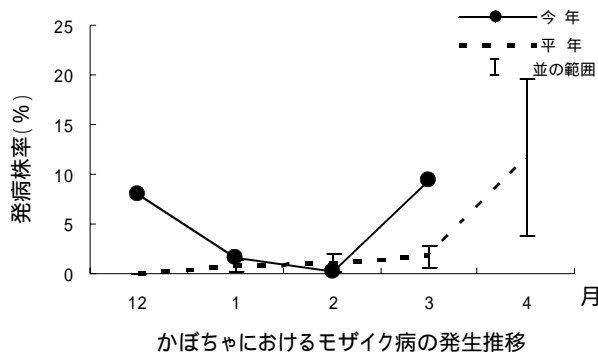
6 かぼちゃ

(1)モザイク病

発生程度： 多

予報の根拠

- a 3月中旬の調査の結果、発病株率9.4%(前年4.0%、平年1.8%)と平年より高かった。
- b アブラムシ類の葉当たり虫数は16.2頭(前年0.1頭、平年0.9頭)と平年より多かった。



防除上注意すべき事項

- a 本病はアブラムシ類によって伝染するため、アブラムシ類の飛来や発生を防止する(平成15年度病害虫発生予察注意報第2号:平成16年3月1日付け参照)。
- b 発病株は抜き取り処分する。やむを得ず発病株を残す場合は、汁液伝染もするので収穫管理作業は最後に行う。

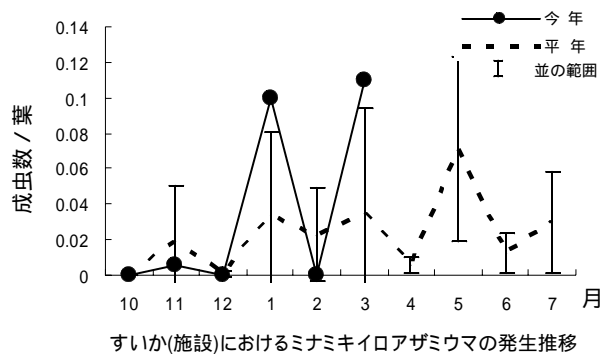
7 すいか(施設)

(1)ミナキイロアザミウマ

発生程度： やや多

予報の根拠

3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.11頭(前年0頭、平年0.03頭)と平年よりやや多かった。



防除上注意すべき事項

平成15年度病害虫発生予察情報技術情報第15号(平成16年2月2日付け)参照。

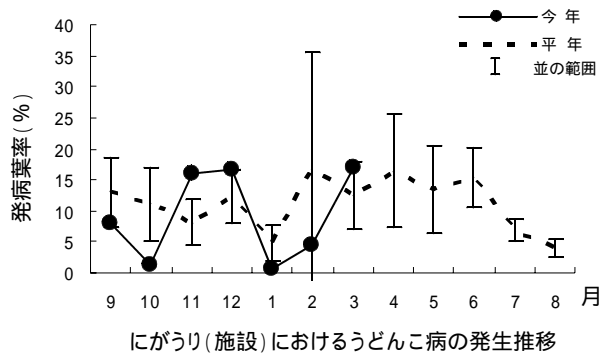
8 iga(施設)

(1)うどんこ病

発生程度: 並

予報の根拠

- a 3月中旬の調査の結果、発病葉率は17.0%(平年12.5%)と平年並であった。
- b 本病は乾燥条件下で発生が助長される。気象予報によると降水量は平年並みの見込み。



防除上注意すべき事項

- a 密植を避け老葉や病葉を除去し透光通風をよくする。
- b 窒素質肥料の多用や偏用を避ける。
- c 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

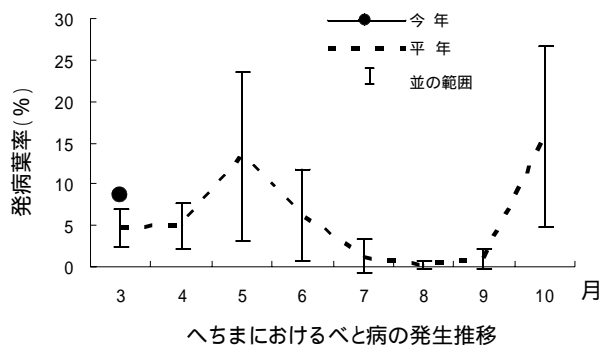
9 hechi

(1)べと病

発生程度: やや多

予報の根拠

3月中旬の調査の結果、発病葉率は8.8%(平年4.7%)と平年よりやや高かった。



防除上注意すべき事項

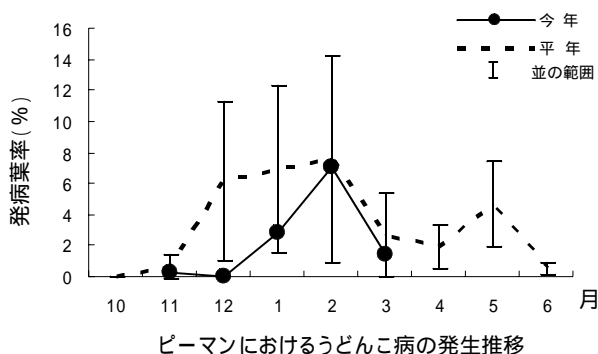
- a 雨滴等による病原菌の跳ね上りを防止するため敷草かビニールマルチを行う。
- b 排水、通風をよくする。
- c 肥料切れしないよう適正な施肥を行う。

10 ピーマン(施設)

(1)うどんこ病

発生程度： 並
予報の根拠

- 3月中旬の調査の結果、発病葉率は1.4% (前年1.6%、平年2.7%)と平年並であった。
- 本病は乾燥条件下で発生しやすい。気象予報によると降水量は平年並みの見込み。



防除上注意すべき事項

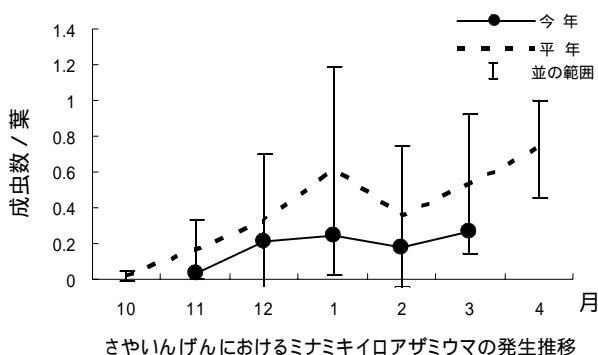
- 窒素肥料の多用や偏用を避ける。
- 老葉や病葉を除去し透光通風を良くする。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

11 さやいんげん(平張り)

(1)ミナキイロアザミウマ

発生程度： 並
予報の根拠

3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.25頭 (前年0.25頭、平年0.73 頭)と平年並であった。



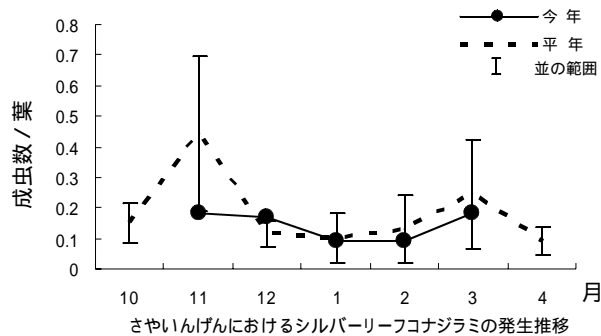
防除上注意すべき事項

- 飛来源となる周辺雑草の除去に努める。
- 施設の入り口はシルバー寒冷紗を張る。
- 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用を避ける。

(2) シルバーリーフコナジラミ

発生程度： 並
予報の根拠

3月中旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.18頭(前年0頭、平年0.25頭)と平年並であった。



防除上注意すべき事項

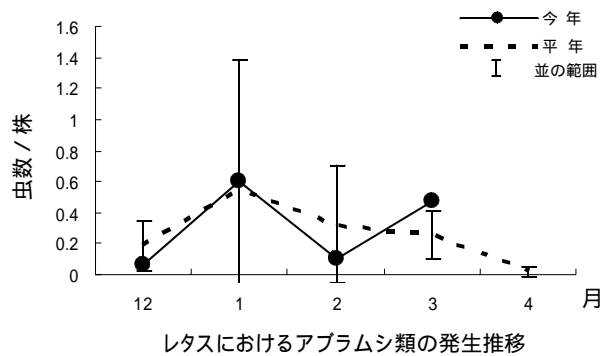
- ハウス内への飛来侵入防止に努め、黄色粘着テープ等による早期発見・早期防除に努める。
- 発生源となる周辺雑草の除去に努める。

12 レタス

(1) アブラムシ類

発生程度： やや多
予報の根拠

3月中旬の調査の結果、株当たり虫数は0.48頭(前年0.28頭、平年0.26頭)と平年よりやや多かった。



防除上注意すべき事項

- 有翅虫の飛来侵入を防止するためシルバーポリテープ等を畦上に張り出すか吊したりする。
- 多発すると防除が困難になるので早期発見・早期防除に努める。